

バス停からの 小さな旅



22 バス停三和交流センター(ほたる線)から、災害復興記念碑の思いに触れる

経験したことのない自然災害などにより、これまで当たり前であった「日常」のありがたさを感じることの多い毎日です。

美濃加茂市でもかつて大きな自然災害がありました。今から50年以上前、1968(昭和43)年8月17日、中濃地方を襲った集中豪雨により、市北部の三和・伊深地区が甚大な被害を受けました。両地区を流れる川浦川や廿屋川、大洞川などが氾濫して各所で土砂崩れが発生し、それにより7人が亡くなりました。

三和小学校の校庭付近にある、災害復興で新しく架け直された「大三和橋」のそばに、当時の災害の様子を記した「災害復興記念碑」があります。碑の裏面下には、亡くなった同級生へ向けた三和小学校6年生の児童合作の詩が刻まれています。

はげしいはげしい 雨の中を
君は逝った 逝ってしまった
けれど君は ぼくらの
心に生きている
いつまでも いつまでも

昭和44年度 三和小学校6年生合作

☎ 文化の森 ☎ 28・1110



今回乗車したバス

行き…ほたる線 3便

帰り…ほたる線 4便

9時21分 美濃太田駅北口

10時00分 平古市公民館

下車後、川浦川沿いを

下流へ歩きながら40分ほ

ど散策。車に注意しな

がら、川の様子や野鳥

のさえずりを楽しむ。

11時41分 三和交流センター

12時18分 美濃太田駅北口



▲三和小学校の校庭の隅にある「災害復興記念碑」



▲川浦川と大三和橋